

○ ツバメオモトの果色 (水島正美) Masami MIZUSHIMA: A note on the colour of the "berry" of *Clintonia alpina* var. *udensis*.

数年前からツバメオモトの果色にるり色と青黒色との両様を認められるのに気附くと共に、先達の書或は談話により同様のことを知り得た。また果実の方にはクロミノツバメオモト (*C. udensis* Trautv. et Mey. f. *nigra* Takeda) の名があつてり実の形から区別されてもいる。然しどうも釈然とせず、過去3ケ年に亘り知友にも頼み互つ自分でも東北、関東、中部の山地で観察を続けて来た。その結果、下記の事柄までは発表しても良いと考えるに至った。8月に登山すると分るのであるが、僅々1本の登山路に沿うてさえるり実から黒実 (上記の如く真黒にはならず、青味を帯びる) への中間色のものが見られる。面白いことに、青味をさすことによる明暗調の幅は黒実の方に広く、るり実の方の変化より著しい。即ち両極端の色彩が全く移行してしまうとは未だ言い切れず、小生の現在の知識ではるり実の濃い者と果実の明色の者との間に溝を認められるのである。然しこれは多分観察の不足によるものと想像している。なお種子の色を見るに、光沢ある明るり色の実を潰せば白色の中果皮と白色又は僅に褐色を帯びた種子とを得る。これに反し、青黒色で光沢を失いかけた実を潰すと青味がかつた中果皮と明る褐色の種子とが現れる。中間的な、濃るり色又は明る黒青色の者では灰かに青い中果皮と淡く褐色を帯びた種子とを有し、中果皮と種子との着色程度に或程度の変化を示している。以上の観察から「青黒色の果実 (即ち果実) こそはツバメオモトの熟果の色彩である」と小生は考えたいのであるが、未だ栽培して同一株に於ける色の変化の様を確認するに至らない。若し小生の考が真であれば、今日まで諸書に現れた果色の記載「碧色時に黒色」、「るり色」、「深碧色」、「藍色或は暗藍色」、「濃藍色」、「帯碧黒色」等は自ら瞭然たるものである。武田先生も「高山植物の話」(1924) を著された時には「果実は球形で初めはるり色を呈して光沢があり熟して漆黒色に変ずる」と見ておられた。附記すれば、本種の果実は普通に液果 (berry) と書かれているが非であるらしい。完熟すれば液汁を失ってさく果様になり (Komarov), 胞背裂開をする (Glehn ex Fr. Schmidt, Hooker fil.) とある。又ヒマラヤの *C. alpina* に酷似することは Hooker 以来述べられているところであり、小生はツバメオモトに *C. alpina* Kunth var. *udensis* Macbride を用いたら良いのではないかと思う。ヒマラヤの者の変化範囲を究明することは果実完熟の状態の確認と共に今後への課題である。

The colour of the "berry" of *Clintonia alpina* Kunth var. *udensis* Macbride (= *C. udensis* Trautv. et Mey.) has hitherto been reported variously as blue, indigo, or black. According to my colleagues' and my own observations in the field, the colour turns darker from blue to black as the fruit ripens by which the segregation of f. *nigra* Takeda loses its stand. The fruit is usually described as "berry," but is stated by few authors that it becomes ultimately a capsule and dehisces loculicidally.